



第23回 常民文化研究講座・国際研究フォーラム

# 交差する 日本農村研究

—アチック・ミュージアムとジョン・エンブリー—



2019年 12月14日 (土)

10:00～18:00

神奈川県横浜キャンパス 3号館 305講堂

趣旨説明 泉水 英計 (日本常民文化研究所・国際常民文化研究機構)

第一部 10:15～12:45	内から見た日本農村 —アチック同人を中心に (Japanese Villages Seen from Inside)
--------------------	---

- アチック・ミュージアムの村落報告書とシカゴ学派のコミュニティ・スタディの対比  
(Comparing Community Studies by the Attic Museum and Chicago School: Similarities and Differences)  
全京秀 (ソウル大学名誉教授・日本常民文化研究所客員研究員)
- 有賀喜左衛門における海外研究者の摂取について: 遺稿類から  
(Influence of Foreign Researchers in Aruga Kizaemon)  
三須田 善暢 (岩手県立大学盛岡短期大学部)
- チームワークのハーモニアス・デヴェロープメントという理想  
—アチック・ミュージアムにおける共同研究を考えて—  
(Harmonious Development of the Attic Museum)  
アラン・クリスティ (University of California, Santa Cruz)

コメント: 加藤 幸治 (武蔵野美術大学)

第二部 13:30～18:00	外から見た日本農村 —ジョン・エンブリーを中心に (Japanese Villages Seen from Outside)
--------------------	---

- 写真と解説: エンブリーの見た須恵村の復元とその現代的意義  
(Suye Mura through Embree's Eyes and Today's Significance of His Photo Collections)  
神谷 智昭 (琉球大学)
- エンブリー夫妻の日米戦争と須恵村の協同  
(Japan-US War for Mr. & Ms. Embree and Co-operation in Suye Mura)  
田中一彦 (ジャーナリスト・元西日本新聞社)
- John Embree in the Cold War (冷戦のなかのエンブリー)  
デイビット・プライス (Saint Martin's University)
- 文化人類学的日本研究のなかの『須恵村』  
(Suye Mura in the Anthropology of Japan)  
桑山 敬己 (北海道大学名誉教授・関西学院大学)
- エンブリーのハワイ島コナ日本人異文化接触論  
(J. Embree's View on Social Assimilation among the Japanese of Kona, Hawaii)  
内海 孝 (東京外国語大学名誉教授)

コメント: 飯島 真里子 (上智大学)

※内容につきましては、変更する場合がございます。

参加無料



神奈川大学日本常民文化研究所



国際常民文化研究機構 共同開催

Internal and External Views of Japanese Villages

# 交差する 日本農村研究

—アチック・ミュージアムとジョン・エンブリー—

日本農村の社会学的研究は、工業化が引き起こした農村問題に対処した米国の農村社会学の影響下に始まったといわれる。1930年代に盛んになった日本農村の実証的な研究も、工業化で疲弊する農村の救済を念頭に置いていたが、同時に、アチック・ミュージアム同人の活動がその一端を示したように、農村生活についての学術的な資料を収集するための調査手法が開発され、農村の社会構造から日本の社会結合の基本形態が析出された。ちょうど同じ頃には、国外の研究者による初めての本格的な日本農村研究—ジョン・エンブリーの須恵村調査—がおこなわれ、文化人類学者による日本社会の特質をめぐる議論の端緒となった。学術的な関心に根ざしたこの議論は、しかし、対日戦争と占領のなかで新たな実践的課題に結びついていった。このように日本農村は、内外の研究者の視線が交差し、また、実践と理論あるいは学術的な関心が交差する研究領域であった。アチック・ミュージアムとジョン・エンブリーを窓口日本農村研究を振り返り、交差する視線と関心の有り様を明らかにしたい。



## 講師プロフィール

- **全京秀** (ソウル大学名誉教授・日本常民文化研究所客員研究員) 生態人類学  
『韓国人類学の百年』(風響社 2004年) / 『문화의 이해(文化の理解)』(一志社 1990年) / 『환경 친화적 인류학(環境親和の人類学)』(一潮閣 1997年) / 『인류학자 말리노브스키(人類学者マリノフスキー)』(늘민(ヌルミン) 2018年)
- **三須田 善暢** (岩手県立大学盛岡短期大学部) 農村社会学  
『石神調査をめぐる土屋・布施論争について』『村落社会研究ジャーナル』22 (2016年) / 『資料紹介 石神大屋齋藤家所蔵有賀喜左衛門関係書簡類』『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』18 (2016年) / 『The Folk Craft (Mingei) Movement and Tohoku Rural Community during the Syowa Depression Period,』 *Bulletin of Morioka Junior College Iwate Prefectural University*, 21 (2019).
- **Alan Christy** (University of California, Santa Cruz) 日本近現代史  
*A Discipline on Foot: Inventing Japanese Native Ethnology, 1910-1945*, (Rowman & Littlefield, 2012) / 『Primitive Communists and Profiteering Women: Propriety and Scandal in Okinawan Studies,』 *Orientalism: From Postcolonial Theory to World History*, E. Burke and D. Prochaska, eds. (University of Nebraska Press, 2006).
- **加藤 幸治** (武蔵野美術大学) 日本民俗学  
『文化遺産シェア時代』(社会評論社 2018年) / 『復興キュレーション』(社会評論社 2017年) / 『紀伊半島の民俗誌』(社会評論社 2012年)
- **神谷 智昭** (琉球大学) 社会人類学・民俗学  
『琉球列島における標準語教育と琉球語教育の歴史と実践』『日本語教育』87 (2019年) / 『奥武島民俗誌(2)』『地理歴史人類学論集』8 (2019年) / 『民俗行事の復活と共同体の再活性化』古家信平(編)『現代民俗学のフィールド』(吉川弘文館 2018年)
- **田中 一彦** (ジャーナリスト・元西日本新聞社)  
『忘れられた人類学者』(忘羊社 2017年) / 『日本を愛した人類学者』(忘羊社 2018年) / 『食卓の向こう側』(西日本新聞社 2004~2006年)
- **David Harold Price** (Saint Martin's University) 人類学史  
*Threatening Anthropology* (Duke University Press, 2004) / *Anthropological Intelligence* (Duke University Press, 2008) / *Weaponizing Anthropology* (CounterPunch Books, 2011) / *Cold War Anthropology* (Duke University Press, 2016).
- **桑山 敬己** (北海道大学名誉教授・関西学院大学) 文化人類学  
『エンブリー「須恵村」の Re-View (再見/再考)』『日本はどのように語られたか』(昭和堂 2016年) / 『ネイティブの人類学と民俗学』(弘文堂 2008年) / *Native Anthropology* (Trans Pacific Press, 2004)
- **内海 孝** (東京外国語大学名誉教授) 日本近現代史  
『角田柳作のハワイ時代』『早稲田大学史記要』30 (1998年) / 『日本研究者エンブリーの通訳』『神奈川大学評論』46 (2003年) / 『リュウリ兄弟の貿易商会とロシア革命』『横浜開港と境域文化』(御茶の水書房 2007年)
- **飯島 真里子** (上智大学) 日系移民史  
『交差する2つのグローバル・ヒストリー』『グローバル・ヒストリーズ』(2018年) / 『Coffee Production in the Asia-Pacific Region,』 *Journal of International Economic Studies* 32 (2018) / 『フィリピン日系ディアスポラの戦後の「帰還」と故郷認識』『文化人類学』80 (2016年) (登壇順)



- ① 東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分
- ② 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用  
1 番乗場 36系統 菅田町/緑車庫前行「神奈川大学入口」下車  
1 番乗場 82系統 八反橋/神大寺入口行「神奈川大学入口」下車  
※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。

## お申し込み

「講座・国際フォーラム 参加希望」を明記の上、①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号を記載し、メール、FAX または書葉にて、**12月9日(月)まで**にお申し込み下さい。

当日参加も歓迎いたしますが、定員(150名)に達し次第締め切らせていただきます。

●宛 先 / **メール: jomin-kouza23@kanagawa-u.ac.jp**  
**F A X : 045-413-4151**

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
神奈川大学日本常民文化研究所

※お申し込みの際にいただいた個人情報は講座の実施・運営にのみ使用いたします。

## お問い合わせ

神奈川大学日本常民文化研究所・国際常民文化研究機構  
TEL : 045-481-5661(代)